

令和8年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修レポート 抜粋

1	学童保育では、学校で通常学級と支援学級で分かれている児童も一緒に活動を行います。また近年ではグレーゾーンの児童も増えている中で、いかに利用児童が安心安全に楽しく過ごせるかを職員同士意見交換しながら日々環境改善に取り組んでいるところです。本日の講話にありました、日々の活動の中で悪い事を引き算するのではなく、良いところを足し算し、「褒める(認める)」という事を大切にしながら関わっていきたいと思います。
2	過去の児童支援の講座で一番充実した講座でした。皆様のご尽力に感謝します。講座中の動画ですが話言葉は早くて耳に届きにくく、テロップが入っていたら良かった。現場の欲しいのは、相手に寄り添えるその場での声掛け事例です。隣席の人たちとの話し合い時間もありありがとうございました。互いをわかりあう関係を作る時間プラス…個々の情報シェアには時間が必要ですが、保育以外の時間は本当に少ないです。私の足りない声掛けワード『わかってあげられなくてごめん』持ち帰ります。
3	ハンデを持っているか否かではなく、その子たちが苦手や練習が必要を感じるか、それを気づいてもらうような手助けをしていきたい。そのための環境や空気感を作り、「傾聴」する気持ちを持って、一辺倒にならないように声のトーンや口調、ギャップに気を配り声掛けしていきたい。 「トライ&エラー」繰り返しの中で我慢する力を私たちが養い、子ども達自身にも我慢するという力を伝えていきたい。
4	障害を持つ子ども達の特性や保護者への支援、生きづらさ等を学びました。支援する側での大切な事は、「褒める、認める」こと。自分たちには出来て当たり前のことでも、褒めることで自己肯定感が育ち自信に繋がる。もちろん本人や他者の怪我に繋がるような事柄については注意もするが、話を聞き一つ一つ解決するとともに褒める認めることで子ども達の成長を保護者と一緒に見守ることを学びました。

5	私たちの学童にも特性を持った子やグレーゾーンの子が数名います。帰って来た時の様子をみて、今日は疲れてるな 今日は機嫌が悪いな などその日のその子の状態に合わせて接するようにしています。発達支援を掲げているわけでないので、基本楽しく安全に過ごしてもらう事を心がけています。その中でも、特性を持っているから障害があると診断されたから 何をしてもいい許される仕方ない ではなく、ダメな行動や言動は注意して改善されたら褒める。毎日の関わりの中で、少しずつ成長できるよう一緒に過ごしています。
6	講師の方の施設の様子を映像で見ることができ、支援を必要とする子への関わり方や支援の仕方が分かりやすかった。今年度から自分が勤務している学童でも支援が必要な児童が利用しており、この関わり方でいいのかと模索している日々だったので、事例紹介の映像やJくんのいい所探しなどとても参考になりました。また、健常児の子でも伝えたい内容、注意したいことなどを話す時に抽象的ではなく選択肢を出して分かりやすく簡単に伝えることは有効的だと思うので、これからの保育に活かしていきたいと思う。